

a .

or.jp

参拝の皆様方にご協力をお願い致しております。 並びに復興と、被災されました方々のご平安を祈念申し上げ、 におきましては各地の被災神社復興の義捐金募金活動を実施し、 当社では四月一日の月次祭に併せ「東北地方太平洋沖地震復興祈 を斎行いたし 甚大な被害をうけた被災地の一 刻も早い復旧 社頭

w w w

o k u

茶」を送ることが叶いました。 ましたが第一回目を実施させて戴きました。内容的には、 神社関係者と打ち合わせをさせて戴き、三月十七日に些少ではあり また、被災者の方々への支援物資提供につきましては、 四月二日に陸前高田市へ、 紙おむつ等小さいお子さんに関する品が主でありました。その 翌三日に宮城県石巻市に 岩手県の 「森のお 粉ミル

げろ」が教えとなっている地区もあるとのことです 等が避難所となっているところがあります。 報道等によりご存じの通り、 被災地では難を逃れた神社の社務所 「緊急時にはお宮に逃

うか。 の再生 日も早い れたような気がしてなりません。数多の犠牲者に思いを致す時、 また昨今の利己主義的な社会生活の有り様に、神々が警鐘を鳴らさ この度の大震災は、物を中心とする文明社会の恩恵にのみ走り、 に向け努力することが私たち日本人の使命ではないでしょ 「国土の復旧」 「生活の再興」そして何より日本人の 心

(平成23年4月17日)

皆様とともに乗り越えられますようひたすらお祈り致します。 安な日々をお過ごしのことと存じますが、 被災地では未だ続く余震や先の見えない原発事故など、 この難局をどうか氏子の 何かと不



たまだれ No.32

夫小國神社

後従・佐野中務丞役を岩瀬静 |振興会長が務められました。

使・遠のできません宣時役として、さらに定して実施されました。川勝知事は勅 前従・野部介役を岩瀬護静岡県議会副

太氏 県 知 事 勅 使役奉仕

役を特別に復興し、鎌倉期の実態を想 となりました。 光協会・商工会等のご協力のもと共催 森町教育委員会をはじめ文化協会・観 る「民俗芸能・民俗行事公開大会」が、 化の保護育成と後継者育成を主旨とす れました。特に本年は、 勅使役として川勝平太知事がご奉仕さ の一宮古記録」をもとに、 たります。この慶年に去る四月十七日 小國神社振興会設立六十年の佳節にあ また、勅使行列は当社所蔵の -成二十三年は勅使行列再興五十年 地域の伝統文 廃絶した諸 「延宝

(4月17日) 勅使役・川勝平太静岡県知事(真中)

> 代へ末永く継承されていくことを期待 この伝統ある行事が更に発展し、次世 輿を担いで参加し、 ながらでありました。また、一宮地区 で供奉する様子は、 等の三役は騎乗し、 奉仕また公開大会の共催を契機として、 首づつご披露いただき諸行事は無事終 勝勅使役と岩瀬前従役より、 会式に臨まれました。閉会式では、 駒止の杉付近で下馬され、公開大会閉 メッセージがかかげられました。 七町内会の子供会も各々作成した樽神 了となりました。本年の知事の勅使役 大震災復興を祈り「がんばれ東北」 神社に到着した一行は参道を進み、 五〇名の行列が参進しました。勅使 「所役召し立て」となり出立、 まるで時代絵巻さ 樽神輿には東日本 烏帽子·大紋装束 和歌を二 Ш 0) 約



花籠の装い(4月17日)

公開大会にて川勝知事・和歌をご披露(4月17日)



町指定民俗文化財・巫女舞(4月17日)

勝平太静岡県知 献 詠

川

宮代公民館にて公開大会の開会式の

勃使行 きしまのやまと想ほゆ森 7), 7国神社 に勅使出で立

町

0

の

宮夫婦契りてはや六十路

けふの

柏手杜にひいき

か

吾

か

心なる小國神

社 に当

名にし負う遠州一の宮前 御 祭礼に寄せて つどいし人ら幸くあ れ に か

> みちのくと吾かふしのくに限りなき 東日本大震災に思ひをいたして

さなからに歴史絵巻か花ふ、き

宮川に花の舞

5

散るまほ

ろば

しろの杜は常若に萌

10 0 43

国神

地 勝平太知事勅使役として小國神社 固め祈るけふにもあるかな ひつ、勅使駒をす、むる に参向

岩瀬 護静岡県議会副議長献

古式 舞 楽 本 膳 \mathcal{O} 復

興

舞踏屋に舞人が一堂に会し 食におきまして古式に則り 奉奏する日 俗文化財) して食事を共にします。 その内容とは、 年の ・再現されました。 試楽が行われる日の昼食では、 例 (本年は四月十六日 楽 芸催で実施されまし 民俗芸能 本番前 国指定重要無形民 現在は、 日の試楽を 「本膳」 本膳」 公俗行事 腊」が 昼 ح

、また、参加する役職・人数も関係献立の内容はかなり変わってきてお のみとなっておりました。 料理

周 部 か L

この日 また、 もあ 関係 りました。 ご協力をいいただき実現が叶 現 しめ多く 到に され 賄 同は古を忍び にわたり忠実に 在 用 es by た当時 の時 では手に入れることが 13 に準備がなされ、口のために事前に 人では手が足りず、 7 代用された品もあり をもとに再 の形式 0 の数は七十にもお いる献立 方 こうした舞楽関 を偲ばせる膳が出 である 事前に試作するなど へと 度 ! 再現され の食材の 0 現いたし 公開大 尽力によ 復興を試み、 素材の 宮祭礼 により、細関係者をは いました。 るよび普段 困 篤志者に 中 しまし ました。 民来上が 田難な 品 は、 堂賄



古式舞楽「本膳」の復興(4月16日)

本膳の献立(4月16日)

太平楽 稚衣裳方

村小佐高菅大建村小鶴鈴高内北大小天大大白 上池藤木沼場部松林見木木藤嶋場澤野場場幡 竜瑞凱千隼春徹 俊勝 明恵詞廣加 慎矢樹矢颯磨久也隆之幸誠廣介信一志 加久富

安 色 の舞 刹 王 村內鈴狩塩鶴大小鶴野佐成西岩嶋 松山木野澤見場川見口野瀬尾瀬田 白天西鈴 幡野尾木比

師行蠹



巫女舞 〈左から〉 岩滿 夏海・大場 美雨 嶋田 千夏・村松 牧歩



敬裕高佳和

稚児舞 〈右から〉 村松 徹也・建部 春久 大場 隼磨・菅沼 千颯



太平楽 〈右から〉 高木 凱矢・佐藤 瑞樹 小池 竜矢・村上

住稚 者児 御芳名と

古式舞楽奉仕者御芳名

高木工業 高木建築 以工芸

一年芳名(敬称略·順

保食や かんなび 株鈴木長十商店 ヤマハ発動機株森町 青木恒産 有太田茶店 株久米吉 ネクサスコーポレーション 工場 ボスケイデンキ (株)日本温装工業 石亀(有) 橋山オ

日本工業 保力である造園土木 イヤー大機械店 日本工業 大本工場 大同アミスター株静岡工場 (株)百

山田建設 佐野鳶工業

デーフラット

東匠 あさおか ・ 本土建㈱ ビューティサロンタカヤナギ

サンワ環境整備株

スリーツリーズゆう

成

株デイトナ

侑ナガタ 木創工房

有ウォーク

森童

高柳米穀店

御ご

敬

称略•順

不 同

野口園 カットハウスオオタ (有遠州ボディー さくら水道

株阿部

倉見建設株

袋井市 栃木県

株大島寅次郎商店 福島県 侑浦野モータース 株PROハイ・サービス 磐田市

森

町

森

森 森 森

町 町 町

株三永

森

(有) 人志本

小島屋松鶴

京都奉製株

京都府 袋井市 東京都 理容タカギ 鈴伍酒店

森のびようし

宮米店

一木の里カントリークラブ

ノ宮郵便局 ナギテッケン株

セコム株磐田支社 春日屋青果店 株小倉商店 榛葉工芸 小國ことまち横丁 みどり写真館 株さのや会館

加藤修土地家屋調査士· 衛今泉土木

行政書士事務所

侑アマノ 入鹿ハム

サンフード機販株静岡工場 長岡香料株静岡工場 遠州中央農協園田支店 加藤はつり工業

(株) 晃和ディスプレイ 東京都(株)村上社寺工芸社 兵庫県

衛丸井紙店 衛政和電気 (株長谷川製作所

森下建設株

森

有デザインオフィス

磐田市 袋井市 森町 島田市

大沼建設(株) 大石糀店

森森森

エム・エス・シー

袋井市

埼玉県

森

カルト株 オーシン株 アコルトパッと

南守屋モーター 内山商会山梨店 内山商会山梨店 株大雄工業 ヤスマ株静岡工場金山化成株シズオカエ ぴあタウンシャトー 西村医院 場川

場

榑林 さき

したこと厚く御礼申 料のご奉賛を戴きま 氏子各地区より神賑 し上げます。

議

例 祭 0 斎 行

献

茶

祭

0)

斎

行

輿渡御) 子入り奉告祭」、十七日午前十時より 転入された方々を神前に奉告する「 歌を神前に奉告する「献詠祭」、 行されました。 の三日間に亘 一時より氏子地区にて新たに出 前日祭」・ 兀 月十 一六日 が斎行されました。 午後二 n, 十六日午前九時より 土 例祭及び諸祭典が斎 時 より十 「神幸祭」 日 |生及び 午後 $\widehat{\mathbb{F}}$ 氏 和

列を賜り れるなど終日参拝者にて賑わいました。 演や弓道愛好会による競射の会が催さ また、 長を始め約二〇〇名の皆様方のご参 十八日午前十時より斎行された例祭 静岡県神社庁長・森町長・議会 境内では新茶を手揉みする実 厳粛に滞りなく斎行されまし

ました。

堂様によりお手前のご奉仕をいただき われ煎茶道静風流天野智堂様、 した。また、祭典の中では献茶式が行

守本湖



例祭の参進(4月18日)



献茶祭のお手前(煎茶道静風流・天野智堂氏)(4月23日)

茶祭が斎行されました。 几 月 十二 \exists 金 午前十 -時より 献

雄様など大勢の皆様のご参列を賜りま 会会長鈴木康之様を始め森町長村松藤 祭典です。 茶を神饌 当日は、 この献茶祭は、 民の安寧と茶業の振興を祈り、 (お供え物) として献上す 森町茶商 小國神社献茶会が 組合組合長 . 献 お 国

尚、 献茶会では毎月一 お茶をお供えいたしてお 日の月次祭に

ります。 も欠かさず、

居 展 σ 開 催

月十八日に亘り開催されました。 居禮先生の個展が三月三十日より 作成されております新 今回は、「新大和絵の世界展」に続き 神宮式年遷宮の諸祭の絵を数 大和絵の画家 应

鑑賞されました。 がっておりました。 それを補うほどの見事な桜の作品が展 ある富士と桜にみられる気高さと美し 品も特別に展示され幻想的な世界が広 示されました。また、日本の神々の作 年は桜の開花が若干遅れましたが、 「群青の富士」 そして華やかに彩りました。 2中には川勝静岡県知事ご夫妻も 古代の杜の春を一層清ら また、 日本の代名詞でも 幅をご奉納いただ 開催後には絵

きました。

川勝静岡県知事へご説明する鳥居 禮画伯(4月17日)

午 ・祭の 斎

本宮山

青葉祭の

斎

行

0

当社にて命名されたお子様の無事の成 りました。 成長を祈る日としてお祝するようにな ら行われ、 とご家族のご参列をいただき祭典が執 長と無病息災を祈願する「端午祭」 厄を除ける行事として古く奈良時代か 斎行されます。本年は命名児七十一名 五月五日に定着したといわれます。 行われました。 端午とは月の 午と五の音が通じることから 毎年五月五日午前十時より、 江戸時代には子どもの無事 端 初 8 の午の日 災 が

と題し季節感のある個展となりました。

回目の開催となり、一霊峰富士と桜展

お子様の健やかなるご成長をお祈り もぎの葉が授与されました。今後とも た神札・記念品・ 祭典終了後には、 一げます。 柏餅・しょうぶ・よ ご神前にお供えし



端午祭・しょうぶの授与(5月5日)

(5月6日) 本宮山青葉祭の直会(古式神酒の撤下)

と初鰹などにて直会が行われました。 祭典後、庁屋にて古式神酒のどぶろく されました。この祭典では本宮山に自 奥磐戸神社にて 別の時間をお過ごしいただきました。 山にて、この時期にしか味わえない格 爽やかな風が吹き若葉の香り立つ本宮 五名の登拝者にご参列いただきました。 日は好天に恵まれ、 香を放つ黒文字の樹が使われます。 な習わしがあり、 生する樹木の若枝を御本殿に飾る特別 頂 五月六日 <u>£</u>. その若枝には甘い 午前十 本宮山青葉祭が斎行 御本殿前には五十 座します 本宮山 芳

届き、ことまち横丁の店頭に飾られ います。



会津民芸品「起きあがりこぼし」(ありがとう)

起きあがりこぼ L 一で義援 金

ちが込められた「ありがとう」の文字 形で、 らは今回の活動に対して、 き上がりこぼし」を仕入れ販売し、 が並ぶ特製の「起き上がりこぼし」が いております。また、 の方々より温かい善意をお寄せいただ 丁には東北地方の早期復興を願う多く に伝わっているものです。ことまち横 る縁起物として四〇〇年前から同地方 ぼしは稚児をかたどった可愛らしい人 支援活動をしています。 の売上の全額を義援金とする相乗的 島県の企業より会津地方の民芸品 ・國ことまち横丁では、 重りの働きで倒しても起きあ 製造元の企業か 起き上がりこ 感謝の気持 被災地の 起 が

玉 垂 平成23年6月1日

夏越 0) 大祓式

の大祓式が斎行されます。 大祓とは、 六月三十日 日常生活の中で無意識の 木 午後三時より夏越

います。 川に流して祓い清める神事のことを い流行病や疫病にかかることなく、 特に夏越の大祓では、 梅雨の時期に

皆様お揃いでお申し込みの上、ご参列 暑い夏を健康で過ごせますようにと祈 ただけますので、是非ともご家族の 当日は神職とともにお祓いをお受け ただきますようご案内申上げます。 茅の輪くぐりが行われます。 祭儀課大祓係

第32号

毎年、

森町立旭が丘中学校の生徒達が

植えています。



宮代神饌田「御田植祭」 (平成22年6月6日)

花菖蒲は梅雨空の下では一段と鮮やか る 一 の種類があり、 競い、六月下旬まで楽しめます。特に 余種の花々が早生・中手・ 菖蒲園は、約一二〇〇坪の園内に一三〇 門前 「初夏の風物詩」として親しまれる花 宮花菖蒲園では新芽がすくすくと 次々と開花が進んでおります。 0 花弁が三弁・六弁・八重咲き 小國ことまち横丁の 六月上旬に見頃を迎え 晩生と咲き 西 回側にあ

(平成22年6月30日)

夏越の大祓式「茅の輪神事」

の株の即売もしておりますの 軽に係員迄お申し出下さ 園内では開園期間 中 花菖蒲 お気



·宮花菖蒲園 (6月下旬迄開園予定) (平成22年6月6日)



境内末社・鉾執社

森シリー ズ翌

花

0 開 花

鉾執社

ı

をご祭神としています。 江戸時代の社家四十一家の祖先の 日に末社として現在の場所に建立し、 このお社は、 参道を進み、 鉾執社は鎮座しています。 昭和六十三年九月二十 手水舎を通り過ぎた左 御

で使われています。神様と人との仲立中の言葉であり「仲だち」という意味 ち、中執持の役目にあった方々ので使われています。神様と人との れます。 の例祭はご関係の方々が参列し斎行さ 、感謝を捧げ、 ほことり」とは、 三月の彼岸の入りの 神主が読む祝詞 の日霊

六一

日日

本宮山月次祭

(午前九

時時

月次祭

十六一八 日日日

口月次祭 口本宮山月次祭 日本宮山月次祭

(午前九時) (午前九時)

月

葉は

月系

七月~十二月

文獻

月香

D 境内地譲渡記念祭 D 甲子祭 1 再次祭 愛宕神社例祭 (午前九時) (午前九時) (午前九時) (午前九時)

三三十八六一 三三月日日日日

十八日 十七日 十八日 H 月次祭 福神像頒布式 神嘗奉祝祭·神嘗祭遙拝式 白鬚神社例祭 (午午前人)

時時時時

甲升治祭祭 二祝祭 · 祝祭 · 紹祭 月

岡山山山田大亀大篠村口田田代場井林﨑

命

名

平 → 成 平二

成十

十年三二

年月四一

月日

三十

H

赳泰健照叶睦環和梨 翔央心瑛実基那華央

御浜沼磐掛森藤菊 枝川崎 带市市市市町市市常

鈴石加原伊戸白山鈴 木黒藤田藤田畑下木 木水水 優晴莉貫瑠 太香弥侑臣斗菜汰那

磐袋掛菊浜掛掛掛袋 田井川川松川川川井 市市市市市市市市市

袋伊川島袋浜袋森掛 井勢崎田井松井 III 市市市市市市市町市

月 霜 月音

十十十七六五三-九八五 日日日日日日日日 十一日 十三日 日日日 新導祭祭祭祭祭

一十七日もみじまつり 一十六日紅葉祭·山芋賞味会 奉納農産物品評会

長

月系

師山 走

十六六 八 日 日 日

日日日

日月次祭 日甲子祭 日本宮山月次祭

二十三日 吉 占

敬老祭安心祭」秋季皇霊祭遙拝式

御

二十十十十六一 十二八八七 1日日日日日日日 1 再次祭 納祭祭

二十 一 日 日

神紅

無。

月香

大祓式 除夜祭

 (午前

 (中)

 (午前

 (中)

 (午前

 (中)

 (日)

 (日)
 <

勧学祭が斎行されました。 校へ入学する児童・生徒をお招きして 本年も氏子地 区において小学校・

中学

いたします。
変権

程

宜しく

お

願

13

勧学祭参列の新入学の皆様(4月2日)





ことまち池の錦鯉(5月6日)

○当社では、お子様の命名を申し受けております

松直渡田西井杉鈴児浦井邊口村川山木玉 結 陽睦煌叶 花希 大來太真幸航昇野恵



ことまち池のヤブデマリ(5月4日)



國 \mathcal{O} 杜

点描

大宝殿南斜面のしゃくなげ (4月27日)



斎館北側の八重櫻(4月22日)



本宮山月次祭にご参列の方々(3月6日)



天竜浜名湖鉄道線・遠江一宮駅キャラクター「だいこくちゃん」(4月17日)

もとに、行列の諸役を復興再現いたしました。 電住 郵便 番号 冠 五垂二 平成二 印F 」(たまだれ)第三十二十三年六月一日 四三七一〇二二六 小國神社社務所 下 〇五三八(八九)七三六七 〇五三八(八九)七三二十 静岡県周智郡森町一宮三九五六 1 藤 伊景

を撮影いたしました。約三三〇年前の古記録を分、「民俗芸能・民俗行事公開大会」の勅使行列分、「民俗芸能・民俗行事公開大会」の勅使行列平成二十三年四月十七日(日)午後三時五十

○『玉垂』三十二号をお届けいたいものです。 外祭関係を中心にご報告させて戴きました。 例祭関係を中心にご報告させて戴きました。 以下関係者の皆様は安堵した様子でした。 以下関係者の皆様は安堵した様子でした。 以下関係者の皆様は安堵した様子でした。 以下関係者の皆様は安堵した様子でした。 15



宮川沿のしゃが(4月22日)